

事例研究報告

中学部自閉症生徒に対して 自分で行動できる範囲を 広げていく取り組み

①生徒の実態

- 中学部生徒 自閉症
- 発達年齢：4歳4ヶ月
- 絵を描いたり、パズルをしたりするのが好き。
- 日常会話程度の言葉は理解し、行動することができる。（カバンを取る等）
- 平仮名を1文字ずつ読むことができるが、流暢に読むことはできない。
- 一人で学習した後に、「できましたカード」を読みながら報告することができる。
- したいことがある時は、絵を描いて伝えてくることがあった。
- 昨年度、一人で近隣のマクドナルドに行き、2回補導されている。
（いずれも母親が気付かないタイミング：母親の入浴中・家事中等）
- 学校でも、4月に無断で教室から出たり、ベランダに出たりすることがあった。
- 学校では、手洗いとトイレは一人で行って教室に帰ってくるができる。
- 家庭は学校に対して協力的で、本生徒のことを温かく見守っている。

②保護者の願い

一人で落ち着いて生活してほしい。

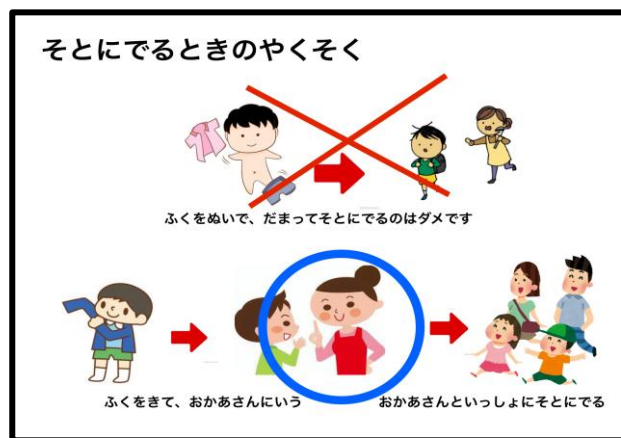
③教員の願い



自分がしたいこと（要求）をコミュニケーションカードを用いて伝えることができる。

④ コンサルテーション前の取り組み

飛び出しやすい玄関や窓に掲示
(5月開始～)



そとにでるときの
やくそくカード



×カード

コミュニケーションカードの使用
(6月開始～)



学校用



家庭用

⑤コンサルテーション前の取り組みの結果

- ・ 5月1週目に開始し、「そとにでるときのやくそくカード」を見たり、母親を呼んで「×カード」を指差して、「ばつ」と読み一人で無断外出する行動を抑制できていた。
- ・ 5月3週目に玄関に掲示していた「そとにでるときのやくそくカード」と「×カード」をやぶり、一人で裸で外へ飛び出した所を母親に見つかり自宅へ連れ戻される。
- ・ 学校でたくさん絵を描いている中でマクドナルドや温泉の絵を描くことが多く、本人から行きたい所のアピール（要求）だと気づき、母親と相談し要求を報告する指導方法に変更することにした。
- ・ 6月2週目～3週目の間に学級でコミュニケーションカードを使って報告する指導を行った。定着が早く、その後4週目から家庭への般化を行い、その日から、コミュニケーションカードを使い自分がしたいことを伝えることができた。

⑥アドバイザーからのご助言

- ・ 将来につながるように自分で行動できる範囲を学校で練習し広げていった後に、その成果を家庭に般化させる。
- ・ 一度、家庭から出ていく成功体験を積んでいる場合は、再度出て行くことが十分に考えられるので、活動時は、活動場所から離れないようにエラーレスで取り組むことが大切である。

⑦アドバイザーの話を受けて

自分がしたいこと（要求）をコミュニケーションカードを用いて伝えることができる。



オリエンテーリング形式の係活動を活用して
教室から出て一人でできる活動を増やす

⑧指導内容 オリエンテーリング活動



- ・廊下内に係活動を行う作業場所を設定する。
- ・教室に近い場所からスタートし、少しずつ距離を伸ばし、一人でできる係活動を増やしていく。
- ・活動時と活動後にコミュニケーションカードを用いて報告する。
- ・エラーレスで取り組む。

作業場所

※階段付近には、
教員が待機（エラーレス）

⑦ こくばんけしクリーナー



⑤ ふうとう入れ



① えあわせ 1



⑥ えあわせ (2)



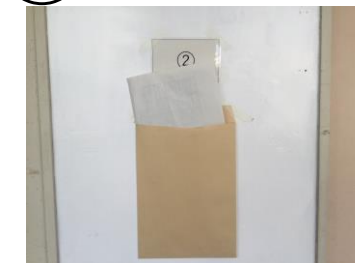
④ ふきんほし



③ イラストけいじ



② てがみいれ



| | | | | | |
|-------|--|---|--|---|------|
| | | ⑦ | | | |
| 階段 | | | | ⑥ | 1 くみ |
| | | | | | 2 くみ |
| 手洗い場 | | ⑤ | | | 3 くみ |
| | | | | ④ | 作業室 |
| 男子トイレ | | | | ③ | 4 くみ |
| 女子トイレ | | | | ② | 5 くみ |
| | | ① | | | |

オリエンテーリング係活動使用グッズ

| | |
|---------------|--------------|
| | よてい |
| かばん | れんらくちょう、すいとう |
| はんかち | をだす |
| てがみをだす | |
| れんらくちょうをかく | |
| れんらくちょうをかくとじる | |
| きがえ(こういしつ) | はんがーにかけ |
| はんかち | を 入れる |
| おてつだいかつどう | (①えあわせ) |
| おてつだいかつどう | (②てがみいれ) |
| おてつだいかつどう | (③イラストけいじ) |



②コミュニケーションカード

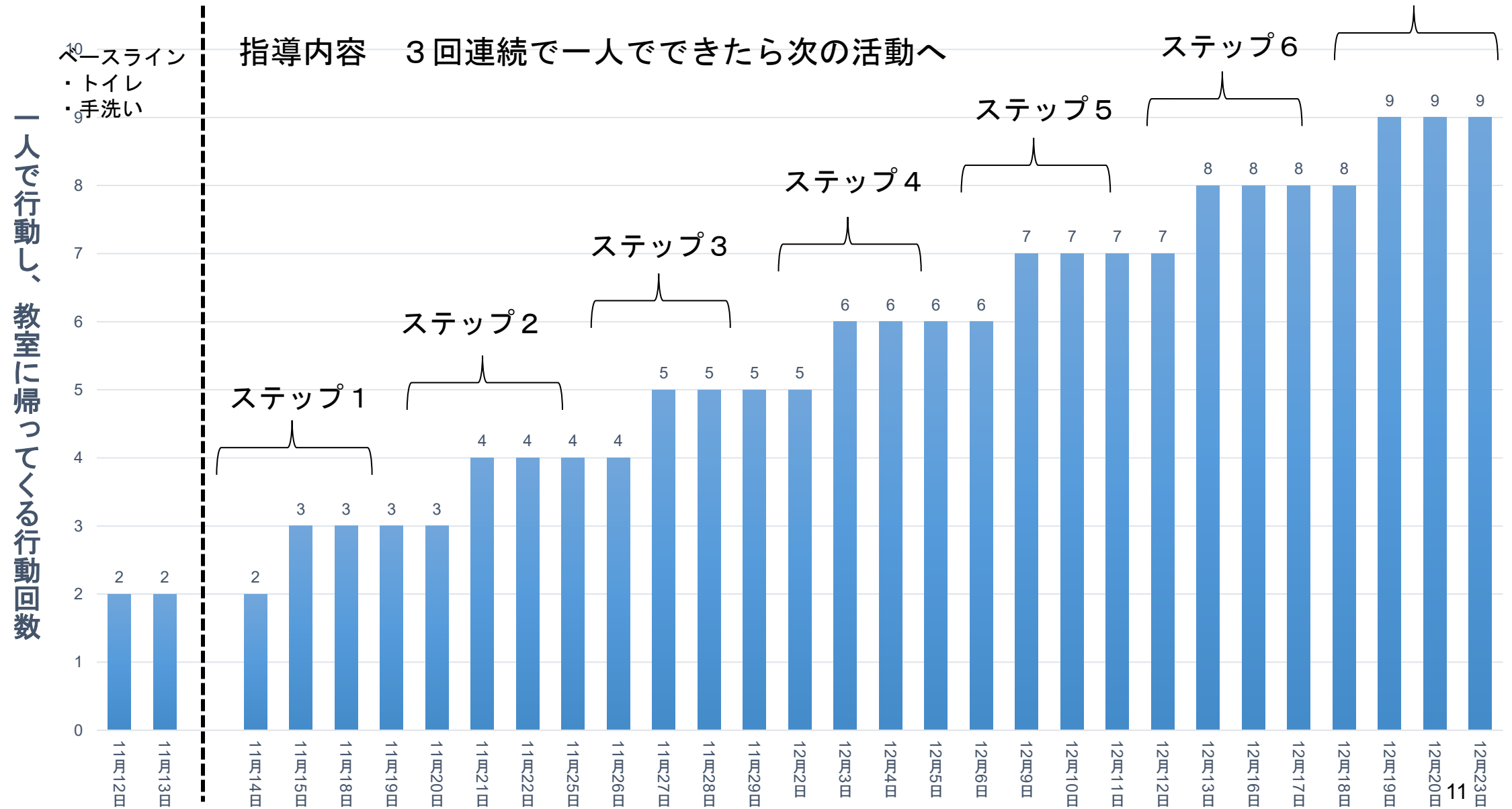


③係活動グッズ

①スケジュール

※スケジュール内に係活動内容を記載

⑨指導の結果



⑩今後の展開について

- 廊下以外で一人で移動したり、行動したりする活動を増やしていく。
- 教室環境や人が変わっても、現在できている適切な行動が維持できるように来年度の担任に取り組みの引き継ぎを行う。
- 作業内容のレパートリーを増やしたり、ランダムに活動を行ったりするよう環境を整える。
(本生徒の状況を見て、慎重に実施を検討する)
- 学校で取り組めるようになったことを家庭に伝え、学校での成果を家庭で般化できるよう協議を行う。

⑪ここが成功のポイント

- 正しい成功体験（一人で、教室から離れて活動し、報告する）を積むために活動環境を見直し、エラーレスを想定した実践を導入したこと。
- 教員とコミュニケーションをとる方法の一つとして、コミュニケーションカードを使用したこと。（指導・支援方法の改善）